

ヤマグチ家具
代表取締役 山口 政秀個性派家具専門店 BOOMS
代表取締役 社長 山崎 徹HOME SIC
代表取締役 上田 修一BACK
TO THE FURNITURE

バックトゥ ザ ファニチャー

家具のスペシャリスト達が語る

ずっと以前からインテリアに興味を持ち続けているえっちゃんの呼びかけで、取手・水戸(つくば)・下妻、各地域の第一線で活躍する家具屋さんオーナー御三方が『シークレットゲートカフェ』に集結。レアなメンバーによる、楽しくも熱く、興味深い内容に満ちたスペシャル対談。さあ、時間です。

text : kotobuki photo : A2C

家具屋を生きとし
て、始め、そして続け
る理由

「今日は忙しい中、ありがとうございます。家具についてのお話を聞かせてください。」

山崎さん(以下山崎) いきなりだね(笑)。俺は、家具には興味がない。商品だから、いざ自分の手元から離れる。なら好きにならない方がいい。そもそも好き嫌いで商売は成り立つものじゃない。多くの人間に好かれるものを多く提供して初めてビジネスになるわけだから。だからなるべく家具には個人的興味を持たず、ビジネスの目で見ようとしている。

上田さん(以下上田) 元々家具の中でも古いものが好きでした。家具屋を始めるにあたり、当初は好きなものを選んでいたらいいと思います。ただ、今は扱っているものが全て好きかと言えば、そんなことはありません。家具はやはりあくまで商品。この道で飯を食っている自分たちですから、コンセプトや想いにズレなければ、家具は商品そのものとして見るべきでしょうね。

山口 ある程度はいいと思う。個人の主義シヨブとか自分を出した形でも。ウチは店の冠にも「個性派家具専門店」って書いてる。これをオレたち店側の個性の発揮だと勘違いされて。実は全く逆で、お客様の潜在的な個性を引き出すという意味なんです。今までの家具屋になかったようなものもいろいろ用意させてもらって、こんな商品もあるのか。意外と私はこういうの好きなんだと発見してもらった。個性。だから決して俺の個性の押しつけではないです。偏つてはいるけど(笑)。山口さんは生まれた時から家具屋の環境だよな。

山口さん(以下山口) 物心ついた時から家具の商売をしてた記憶しかありません。小学生の時には家具を梱包するダンボールを切つて飛行機や家を作して遊ぶ子供でしてたね。でもその実家を高校入學時に離れ、水戸での下宿生活を経て27歳でロンドンから帰国し、30歳で実家へ戻りました。ビジネスの右も左もわからないまま家業に従事し、

帰国から5年後には、父から「好きなようにやったらいい」と言われ代替わりしたものの、好きなようにやったら立ち行かない事も2年経つてわかったんです。

山崎 俺は今の山口さんの言葉には凄く引つかりを感じるんだよね。俺の親父は祖父が亡くなったために、転職し家具屋を継いだ。その数年後に、手伝いをしていた俺が潰れてしまったというのが現実で、自分のふがいなさだよな。潰れたはいけど、とたんに飯の種がなくなつてしまったわけだ。何ができる。もともと勤め人が嫌で実家へ逃げ帰つて来た自分が目の前にできる仕事はもう家具屋しかない。しかも場所がスーパーマーケットのカスミの横にある100円ショップ(※現在はクリーニング店)の2階。誰に聞いても成功しないって断言しますよ。そこで俺は腹を括つたわけ。逆に、この決して良いとは思えない条件で、どうすれば稼げるかを徹底的に考えることができた。

「追いつめられた時の人間の凄まじさはわかるような気がします。選択肢を狭められ、生き抜くための逼迫している時の方が人間はより集中できることも。」

山口 山崎さんの言う「仕事を選べる人は一見、幸せのように思えるけど、俺からすると選択が多いことは意外と不幸せなんじゃないか」の言葉には、私は選んだのか？私自身いろいろな思いが巡ります。

上田 私は事務機の営業をしていました。東京から茨城に戻り、事務機で最初は独立。ただ当時事務機の進歩はスピードが凄かった。とても個人ではついていけないほど急速で。このままじゃ、文房具を取引先に運んでるだけの事務機の営業オヤジで終わってしまうと危惧を抱きました。何とかしなければの思いが募る中で、インテリアを扱う友人から、多くの業界関係者を紹介してもらったんです。皆の活き活きとした姿を見て、実際、ショパたちの住む水戸で楽しめたのが始まり。だから最初は楽しめるものを扱っていたけど、ご飯を食べていくために、何かを捨てる決断が次のステップになることを実感しましたね。

空間設計にヨーロッパの
アイテムをプラス

現オーナーはイギリスで家具作りを経験

「人」「物」を愛し4世代に渡り地域に愛され続けてきた家具店は、時代に合わせ変化をしながら、現在は暮らしのサポートから室内空間の演出に力を入れている。そして「思い」と「思いやり」を融合させ、素材と対話をしながら独自のデザインも考える。「思いをカタチに」をテーマにきつと素敵な出会いがありますよ！

家具を愛する

一方で弊社は長年家族と過ごした桐箆箆を素敵に蘇らせる事得意としている。

先日母親から子、孫へと引継がれ、愛着のある桐箆箆をリメイク。

100年を超えた親子の物語ですね。

この究極「和」のアイテムがさらに空間に彩りを添えそつです。

取扱商品

輸入：小物、家具、照明器具、壁紙&カーテン
国産：一般家具、桐箆箆の特注から再生



Gallery YAMAGUCHI
ヤマグチ家具
TEL.0296-43-5181
山口家具株式会社 下妻市小島12-1
10:00~19:00 水曜定休
http://www.yamaguchi-kagu.jp/



イギリス留学時に通ったファニチャー・スクールの学生証



壁紙の提案をイメージ作る大事なところですよ